



海に生きる・海を描く

— 一応挙、北斎から杉本博司まで —

2006. 6. 3(土) — 7. 17(月)(祝)

休館日 6/5(月), 7/3(月) | 開館時間 10:00-18:00
観覧料 一般 200(160)円 金曜・土曜日は20:00まで
高校・大学生 150(120)円 * 観覧受付は閉館の30分前まで
小・中学生 無料
*()内は団体30人以上の料金
主催 千葉市美術館

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art





円山応挙《富士三保松原図》1779(安永8)年 *後期(6/26-7/17)展示

海に生きる・海を描く

—応挙、北斎から杉本博司まで—



曾宮一念《うみべの村・於波太》1935(昭和10)年



杉本博司《South Pacific Ocean, Maraenui》1990(平成2)年

●千葉市美術館の所蔵作品を中心に——

三方を海に囲まれた千葉。日頃より海に親しんでいる私たちですが、美術作品の中で海と私たちとのかかわりはどのように表現されているでしょうか。千葉市美術館が所蔵する、近世から現代にかけての作品によって海と私たちの関わりを探ります。

会場構成は、

I. 江戸時代の人々と海

—海を見る、海から見る。だけど海の向こうには行けなかったころ—

II. 明治時代以降の美術作品に見る海の表現 その1

—日本各地の風景をたずねて—

III. 明治時代以降の美術作品に見る海の表現 その2

—房総あちらこちら—

IV. 陸と海

—1970年以降の美術作品と海の関係から、何が見えるだろうか—

の四部構成です。

●主な出品作品(江戸時代の絵画は、会期中展示替えを行います)

- ・横山華山《天橋立・富士三保松原図》1822(文政5)年
*前期(6/3-25)展示
- ・歌川豊国《海浜遊歩図》1800-01(寛政12-享和元)年頃
*前期(6/3-25)展示
- ・司馬江漢《犬のいる風景図》1800-02(寛政12-享和2)年頃
*後期(6/26-7/17)展示
- ・山本 鼎《漁夫》1904(明治37)年
- ・森田恒友《牛深港(『日本風景版画 第五集 天草之部』)》1917(大正6)年
- ・河口龍夫《陸と海》1970(昭和45)年
- ・小清水 漸《デウカリオンの机》1983(昭和58)年
- ・諏訪直樹《無限連鎖する絵画 PART3》1990(平成2)年

◆美術館ボランティアスタッフによるギャラリートーク

毎週水曜日午後2時より・チケットを持って8階展示室入口にお集まりください。

◆コレクション理解のための市民美術講座

「浦上玉堂」 講師：小林 忠(本館館長)

6月24日(土) 午後2時より・11階講堂にて開催(入場無料)

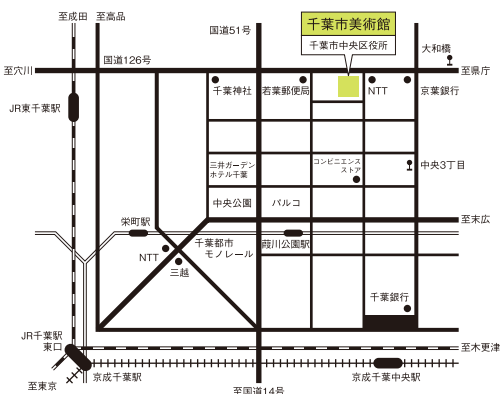
◆次回予告

7月22日(土)-8月27日(日)

イギリスの美しい本/スターよ永遠に 追善浮世絵展

| 交通案内 |

- ◎JR千葉駅東口より
 - ・徒歩約15分
 - ・千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩5分
 - ・バスのりば7番より大学病院行、または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩2分
- ◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- ◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km 広小路交差点近く
- ◎地下に駐車場あり



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311(代)
<http://www.ccma-net.jp>